

ビワ灰斑病のベンズイミダゾール系薬剤耐性菌に対する各種薬剤の感受性

[要約] ビワ灰斑病のベンズイミダゾール系薬剤（トップジンMやベンレート）耐性菌に対して、低濃度で菌叢生育を抑制する薬剤はベルコート水和剤である。

長崎県果樹試験場・病害虫科

専門

作物病害

対象

果樹類

分類

指導

資料名：平成10年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

1997～1998年の2か年連続して、県内の露地ビワ産地で果実腐敗が多発した。ビワ灰斑病の防除として従来からベンズイミダゾール系薬剤（トップジンMやベンレート）が使用されてきたが、生産現場からは薬剤の効果を疑問視する声があった。そこでビワ灰斑病の薬剤耐性菌に対して効果のある薬剤の選抜を検討する。

[成果の内容・特徴]

- ①ベンズイミダゾール系薬剤耐性であるビワ灰斑病菌の菌叢生育量を最も抑えるのはベルコート水和剤で、1ppmでも菌叢生育抑制がみられ50ppm以上では菌糸がほとんどみられない。また、菌叢生育の最小阻止濃度（MIC、minimum inhibitory concentration）のピークは10ppmである。
- ②ロブラール水和剤でも菌叢生育抑制がみられるが、その程度はベルコート水和剤より低い。
- ③これらのことから、ベンズイミダゾール系薬剤耐性菌に対して低濃度で菌叢生育を抑制する薬剤はベルコート水和剤である（図1、2）。

[成果の活用面・留意点]

- ①ビワ灰斑病のベンズイミダゾール系薬剤耐性菌を蔓延させないように、薬剤防除を行う際はベンズイミダゾール系薬剤だけでなくベルコート水和剤等系統の異なる薬剤とのローテーション散布が必要である。
- ②ビワ灰斑病に対して、罹病葉の除去等伝染源の密度低下を図るとともに、果実だけでなく新しゅうへの感染防止と薬剤防除体系の再検討が必要である。

[具体的データ]

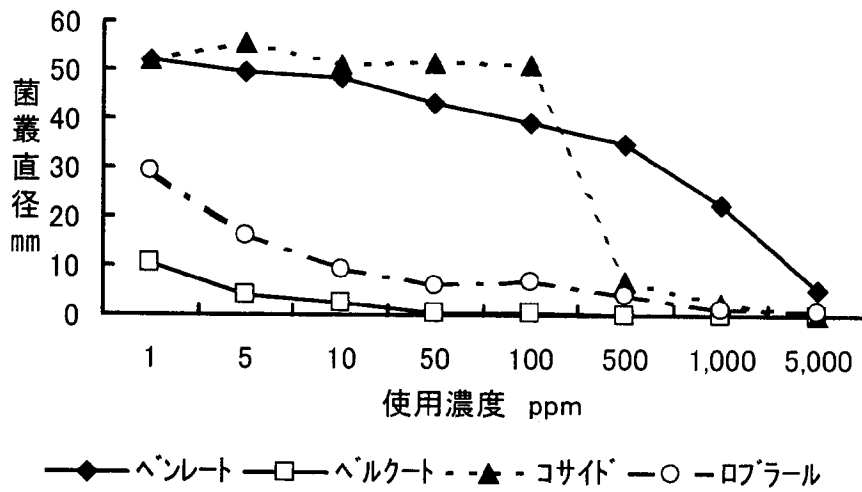


図1 ビワ灰斑病のベンズイミダゾール系薬剤耐性菌に対する各種薬剤の菌叢生育抑制効果

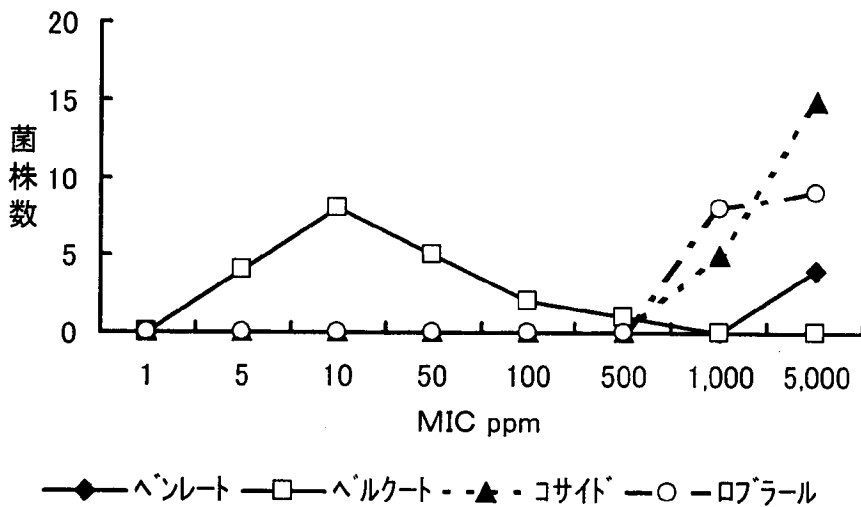


図2 ビワ灰斑病のベンズイミダゾール系薬剤耐性菌に対する各種薬剤の感受性頻度分布

[その他]

研究課題名：果樹の特殊病害虫発生状況調査

予算区分：県単

研究期間：平成10年度（昭和58年～）

研究担当者：古賀敬一、太田孝彦

既発表論文等：平成11年 九州病害虫研究会報（投稿中）